

課題 1 : 市民や来訪者の移動を支える 公共交通の確保・見直し

- ✓利用者の減少や担い手の不足などに伴う交通サービスが低下等が要因となりコミュニティバス・路線バスの満足度が低いと想定
- ✓また、交通サービスの低下により通学・通勤の負担増が懸念される
- ✓公共交通の運行に係る財政負担が増加

- ・マイカーを利用できない市民や観光客の移動手段の確保が必要
- ・利用状況やニーズ、地域の実情を踏まえ、公共交通の見直し検討が必要
- ・運転士不足を踏まえ、限られた輸送資源の中でどのように移動環境を整えていくかが課題



課題 2 : 深刻な担い手不足の解消

- ✓バスの運転士が不足しており、また、平均年齢も高くなっている
- ✓路線バスの利用者は、多くの路線で復調傾向にあったが、路線バスが大幅に減便し、利用者に影響

- ・深刻な担い手不足の解消を図りつつ、担い手が不足する中でも公共交通を維持・確保していくことが必要



課題 3 : 公共交通を支える意識の醸成、 自家用車からの利用転換

- ✓市民は自家用車での移動が多く、公共交通の利用は少ない
- ✓一方、市内公共交通環境が改善した場合の利用転換意向は約5割
- ✓高齢者の事故発生件数が増加傾向、また、運転免許証自主返納後の移動手段について不安に思う声が多く挙がっている

- ・公共交通への意識・関心を高め、過度な自動車依存からの利用転換が必要
- ・高齢者が免許証自主返納できるよう、移動手段を確保することが必要



■ 具体的な取組の検討（たたき案）

- 県・周辺市町と連携した各公共交通機関の円滑な運行の継続・見直し
- 安全運行の確保
- 運行事業者への支援の継続（運行支援、鉄道施設の維持・修繕、ハピラインふくいへの経営安定基金負担金拠出）
- 最先端通信技術等を活用した交通サービスの研究と導入検討

- デジタル技術を活用した業務効率化等による経営の安定化促進
- 関係機関が連携した担い手確保策の推進（採用情報発信、就職説明会サポート）
- 職場環境の整備や第二種免許取得等への支援

- カーセーブデー、パーク＆ライドの推進
- 地域鉄道サポート団体の周知、加入促進等
- タクシー、バス、鉄道事業者による運賃割引制度の実施・継続
- 運転免許証返納者への支援
- 交通事業者との共同イベントや利用促進キャンペーンの検討・実施

主な課題の整理と具体的な取組の検討

課題4：わかりやすい情報提供と利用環境の向上

- ✓バスの改善事項として、「時刻表や路線図などの分かりやすい情報提供」、「スマートフォン、パソコンなどでのバス運行情報の検索サービス」を求める声が多い
- ✓イータクは現在利用者が増加傾向にあるものの、イータクの運行内容まで知っている人は2割未満
- ・デジタル技術等を活用しつつ、わかりやすい情報提供など、利用環境を向上することが必要



■具体的な取組の検討（たたき案）

- 各種発信媒体（京福バスナビ、公共交通ハンドブック、バスマップ、市公式LINE）を活用した情報提供
- 坂井市公共交通ハンドブックへの情報集約
- 交通DXの推進（ふくいMaaSアプリの本格導入、キャッシュレス利用の周知等）
- 駅施設、乗り場におけるサイン・待合環境整備
- 主要バス停におけるバス待ち環境等の改善（サイネージ等の設置）

課題5：まちづくりと連携した公共交通の持続性の確保

- ✓市では立地適正化計画を策定し、鉄道の周辺を中心拠点としたまちづくりを進めることとしており、現在もハピラインふくい・春江駅を中心としたまちづくりが検討されている
- ✓北陸新幹線延伸後、関東圏を中心に多くの方が来県しており、2次交通の利用状況は、えちぜん鉄道全体で非日常利用の割合が前年比で53%増加
- ・まちづくりとの連携により公共交通の価値を高め、持続性を確保することが必要



- 駅周辺の駐車場・駐輪場、道路のバリアフリー化等の整備検討
- 教育機関と連携した利用促進（市内高校における説明、乗車体験等による利用機会の創出）
- 交通事業者と連携した観光企画の実施
- 地域通貨と公共交通の連携に関する検討
- イベント等における交通事業者との連携
- 交通GXの推進（オンデマンド型交通の車両更新時における低燃費車両への転換、車両小型化）